

# (3) がん検診概要

## 胃がん検診

実施期間	2017年10月1日～2018年3月31日	実施回数	10回	実施人数	10,000人	検出がん数	100人
検診方法	胃がん検診キット	検診場所	保健所、市民センター	検診時間	10時～16時	検診費用	無料

## 子宮がん検診

実施期間	2017年10月1日～2018年3月31日	実施回数	10回	実施人数	10,000人	検出がん数	100人
検診方法	子宮頸がん検診キット	検診場所	保健所、市民センター	検診時間	10時～16時	検診費用	無料

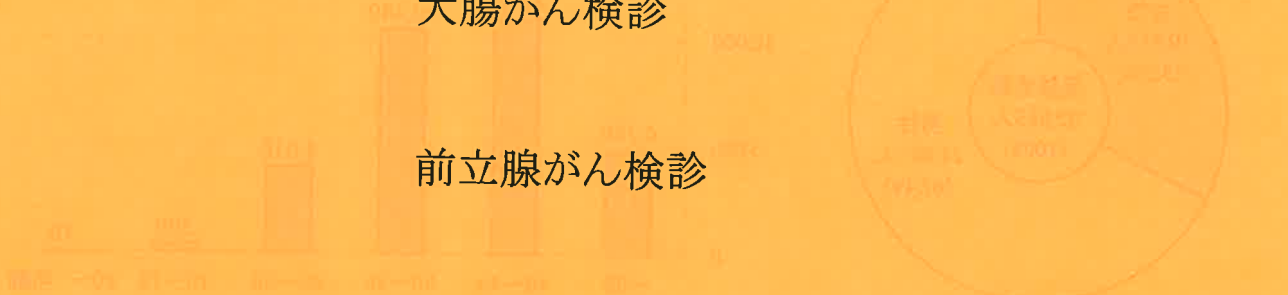
## 肺がん検診

実施期間	2017年10月1日～2018年3月31日	実施回数	10回	実施人数	10,000人	検出がん数	100人
検診方法	低線量胸部X線検査	検診場所	保健所、市民センター	検診時間	10時～16時	検診費用	無料

## 乳がん検診

実施期間	2017年10月1日～2018年3月31日	実施回数	10回	実施人数	10,000人	検出がん数	100人
検診方法	乳房X線検査	検診場所	保健所、市民センター	検診時間	10時～16時	検診費用	無料

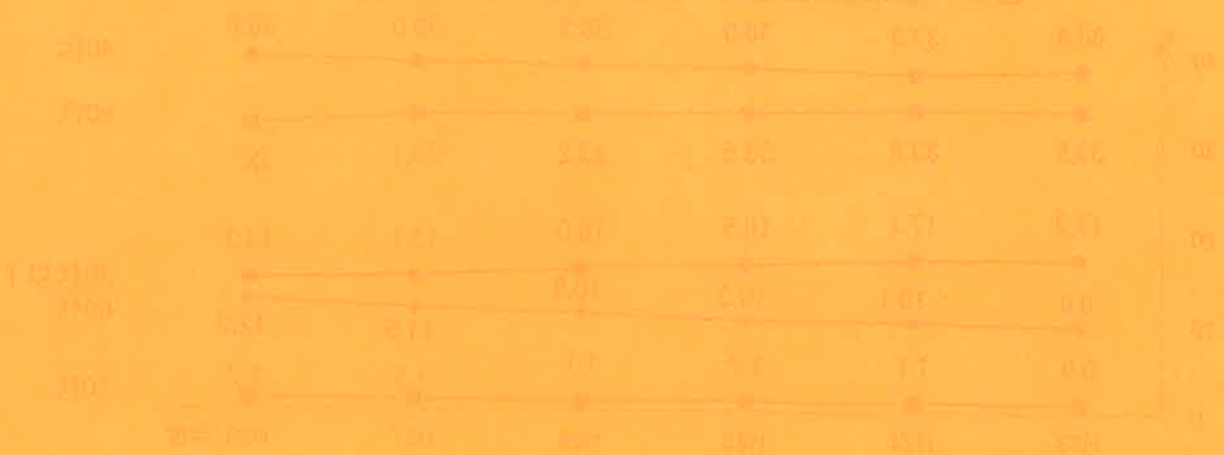
## 大腸がん検診



## 前立腺がん検診



(高年層がん検診実施率) 福岡県健康増進課 作成



# 胃がん検診

738事業所及び個人受診者16,176人と、ドックで4,466人、健康管理センターで11,927人の計32,569人を実施した。前年度に比べて、108人(0.33%)の増加となった。

また、受診者の6.6%にあたる2,163人が要精検となり前年度より0.6ポイント低い要精検率となっている。年間の実施日数は1,434日(前年より25日増加)で、一日当たり22.7人を実施した(表1)。

受診者総数32,569人を男女別でみると、男性21,957人(67.4%)、女性10,612人(32.6%)で、男性は前年度に比べ0.4ポイント低くなり、全体の約7割を占めている(図1)。

年齢階層別では、40代12,895人(39.6%)、50代10,449人(32.1%)、30代以下4,798人(14.7%)の順となっている(図2)。過去6年間の推移をみると、40代と60代では上昇傾向だが、30代と50代では下降傾向にあるのが気付きなることである(図3)。

総合健診センター 表1 受診者数及び要精検者数

	出張検診		施設		ドック		合計		のべ実施日数	一日当たり実施数
	受診者数	要精検者数(%)	受診者数	要精検者数(%)	受診者数	要精検者数(%)	受診者数	要精検者数(%)		
事業所	10,127	723(7.1)	6,049	272(4.5)	4,466	379(8.5)	20,642	1,374(6.7)	1,111	18.6
附属あおもり健康管理センター										
事業所	2,611	175(6.7)	9,316	614(6.6)	*	*	11,927	789(6.6)	323	36.9
合計										
事業所	12,738	898(7.0)	15,365	886(5.8)	4,466	379(8.5)	32,569	2,163(6.6)	1,434	22.7
前年度	12,851	1,001(7.8)	15,046	988(6.6)	4,564	337(7.4)	32,461	2,326(7.2)	1,409	23.0

図1 受診者数(男女別)

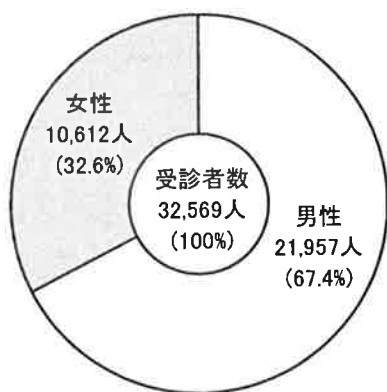


図2 年齢階層別受診状況

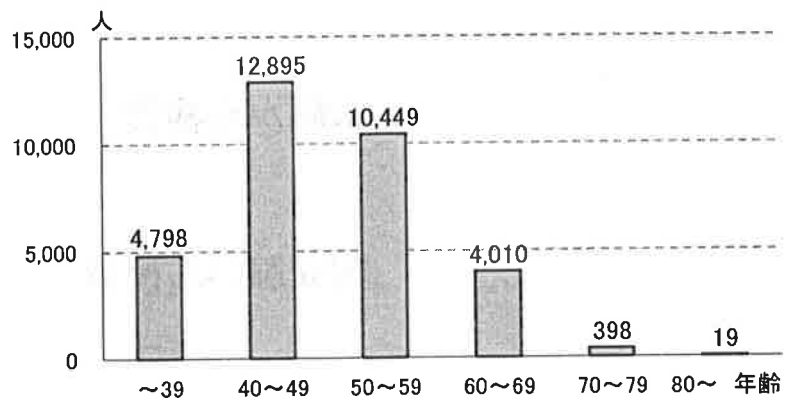
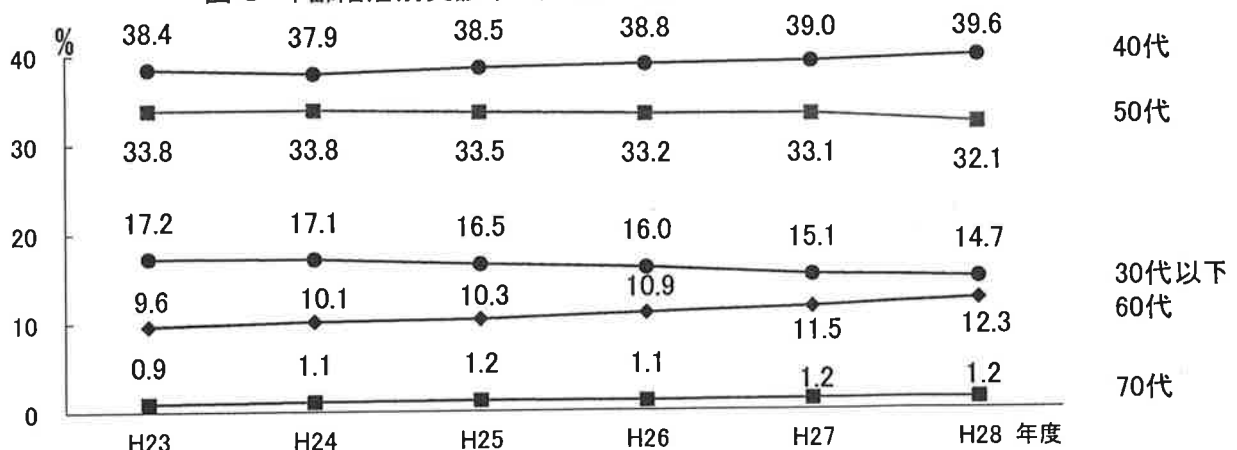


図3 年齢階層別受診率(平成23年度~平成28年度)



## 〈精検受診状況〉

要精検者2,163人のうち精検受診者は1,633人(75.5%)で(図4)、前年より1.0ポイント増の精検受診率となった。男女別の精検受診率は、女性の80.7%に対し、男性は74.0%と女性より6.7ポイントも低かった(表2)。また、実施主体別で見ると、市町村の精検受診率85.6%に比べ、事業所の精検受診率は74.2%、ドックでは81.5%で11.4ポイントと4.1ポイント低かった(表3)。

精検受診者の主な発見疾患は、胃がん発見数7人(0.02%)のうち早期がん5人、進行がん2人で、胃ポリープ158人(0.49%)、胃潰瘍62人(0.19%)、胃炎843人(2.59%)などであった(表3)(表4)(表5)。

図4 精検受診状況

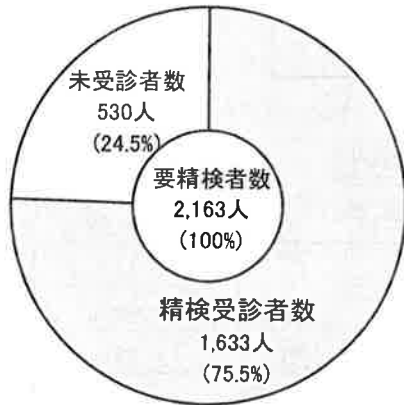


表2 精検受診状況(男女別)

	要精検者数	精検受診者数 (%)
男性	1,687	1,249 (74.0)
女性	476	384 (80.7)
計	2,163	1,633 (75.5)

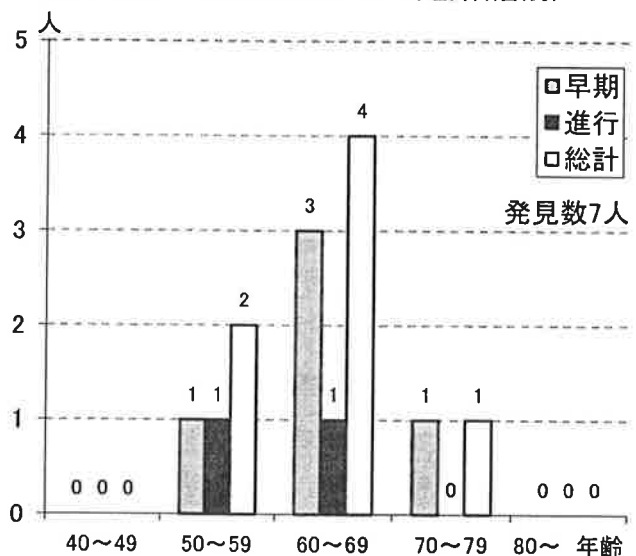
表3 主な発見疾患

	受診者数	要精検者数	精検受診者数 (%)	精密検査結果											要精検者本人からの受診報告	
				胃がん		胃がん疑	胃ポリープ	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	共存潰瘍	胃潰瘍癒痕	胃炎	その他	異常なし		計
				早期	進行											
事業所	28,103	1,784	1,324 (74.2)	6	4	2	138	56	21		66	677	98	202	1,266	58
ドック	4,466	379	309 (81.5)	1	1	0	20	6	4		13	166	44	40	295	14
合計	32,569	2,163	1,633 (75.5)	7	5	2	158	62	25	0	79	843	142	242	1,561	72

表4 発見がん(年齢階層別・男女別・早期進行別)

		早期	進行	男女計	合計
40~49	男	0	0	0	0
	女	0	0	0	
50~59	男	0	1	1	2
	女	1	0	1	
60~69	男	3	1	4	4
	女	0	0	0	
70~79	男	1	0	1	1
	女	0	0	0	
80~	男	0	0	0	0
	女	0	0	0	
男女計	男	4	2	6	7
	女	1	0	1	
合計		5	2		

表5 発見がん(早期進行別・年齢階層別)



## 子宮がん検診

事業所及び個人受診者 1,634 人と、ドックで 1,524 人、健康管理センターで 1,327 人の計 4,485 人に実施した。なお、頸部受診者の 1.9 % に当たる 83 人が要精検となり、前年より 0.3 ポイント減の要精検率となった(表 1)。子宮体がんは、対象者無しであった。

検査方式別では、出張検診及び施設(センター)で 2,961 人(66.0%)、ドックで 1,524 人(34.0%)であった(図 1)。前年に比べて、出張検診及び施設(センター)で 4 人増、ドックで 115 人の減少で、計 111 人の減少であった。

また、一次検診における主な発見疾患は、卵巣腫瘍 2 人(0.04%)、子宮筋腫 128 人(2.9%)、ポリープ 93 人(2.1%)などであった(表 3)。

総合健診センター 表 1 受診者数及び要精検者数(頸がん)

	受診者数	要精検者数(%)	実施日数	一日当たり実施数
出張検診	426	6 (1.4)	13	32.8
施設	1,208	23 (1.9)	15	80.5
計	1,634	29 (1.8)	28	58.4
ドック	1,524	29 (1.9)	106	14.4
合計	3,158	58 (1.8)	134	23.6

附属あおもり健康管理センター

施設	1,327	25 (1.9)	37	35.9
計	1,327	25 (1.9)	37	35.9

合計

出張検診	426	6 (1.4)	13	32.8
施設	2,535	48 (1.9)	52	48.8
計	2,961	54 (1.8)	65	45.6
ドック	1,524	29 (1.9)	106	14.4
合計	4,485	83 (1.9)	171	26.2
前年度	4,596	102 (2.2)	179	25.7

図 1 方式別受診状況

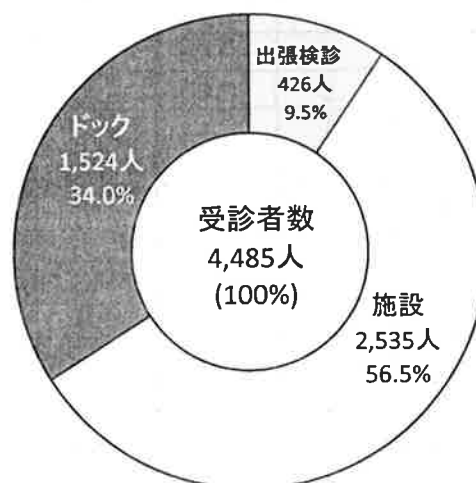


表 3 一次検診における発見疾患

	受診者数	ビラレン(+)	ビラレン(疑悪性)	炎症			ポリープ	外陰腫瘍	子宮筋腫	卵巣腫瘍	子宮脱	膣脱	その他	所見なし
				トリコモス症	真菌類	その他								
出張検診	426						1		9	1	1		3	412
施設	2,535						51		51	1	3	1	10	2,422
ドック	1,524						41		68				12	1,405
合計	4,485						93		128	2	4	1	25	4,239

<精検受診状況>

子宮がん(頸部)検診の要精検者 83 人のうち精検受診者 67 人 ( 80.7 %) で、前年に比べて 6.6 ポイント下回った(表4)。

精検の結果、頸がんが 1 人で、上皮内がん 1 人であった(表5)。

また、体部検診該当者はいなかった。

表 4 精検受診状況(頸部)

	要精検者数	精検受診者数(%)	発見がん
出張検診	6	5 (83.3)	
施設	48	38 (79.2)	1
ドック	29	24 (82.8)	
合計	83	67 (80.7)	1
前年度	102	89 (87.3)	5

表 5 発見頸がん(進行別・年齢階層別)

	上皮内がん	浸潤がん	合計	
			早期進行	
～29				
30～39				
40～49	1		1	1
50～59				
60～69				
70～79				
80～				
合計	1		1	1

# 肺がん検診

154事業所及び個人受診者14,471人と、ドックで4,843人、健康管理センターで875人の計20,189人を実施した。前年度に比べて、111人(0.1%)の増加となった。受診者の2.2%にあたる443人が要精検となり、前年度より0.1ポイント下回った。また、肺がんX線撮影受診者20,189人のうち、ハイリスク・グループを対象に実施した喀痰細胞診検査は、事業所の対象者1,253人のうち検査者1,241人(0.2%)となり前年度と比べ0.1ポイント高く、ドックでは100%の回収となった。

なお、年間の実施日数は804日(前年より1日減)で、一日当たり25.1人を実施した(表1)。

受診者総数20,189人を男女別でみると、男性13,871人(68.7%)、女性6,318人(31.3%)と男性が多く、女性の約2.2倍であった(図1)。

年齢階層別では、40代7,237人(35.8%)、50代6,050人(30.0%)、60代2,415人(12.0%)の順となっている(図2)。過去の推移をみてみると、30代以下、40代が上昇を示しており、50代は減少傾向がみられる(図3)。

## 健診センター

表 1 受診者数及び要精検者数

区分 主体別	胸部X線検査、CT検査		喀痰細胞診検査		実施日数	一日当たり 実施数
	受診者数	要精検者数 (%)	受診者数	要精検者数 (%)		
出張	12,203	230 (1.9)	455	1 (0.2)	237	51.5
施設	2,268	41 (1.8)	129	0 (0.0)	161	14.1
ドック	4,843	153 (3.2)	478	1 (0.2)	208	23.3
合計	19,314	424 (2.2)	1,062	2 (0.2)	606	31.9
附属健康管理センター						
事業所	875	19 (2.2)	179	0 (0.0)	198	4.4
合計						
合計	20,189	443 (2.2)	1,241	2 (0.2)	804	25.1
前年度	20,078	453 (2.3)	1,397	1 (0.1)	805	24.9

図 1 受診者数 (男女別)

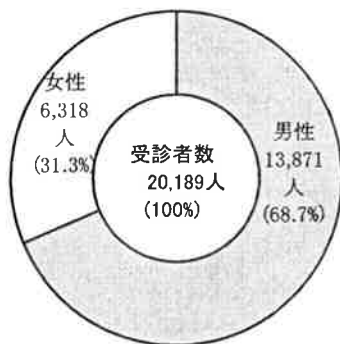


図 2 年齢階層別受診状況

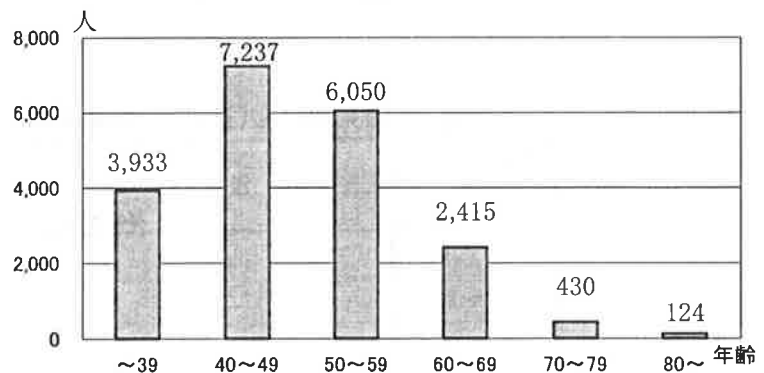
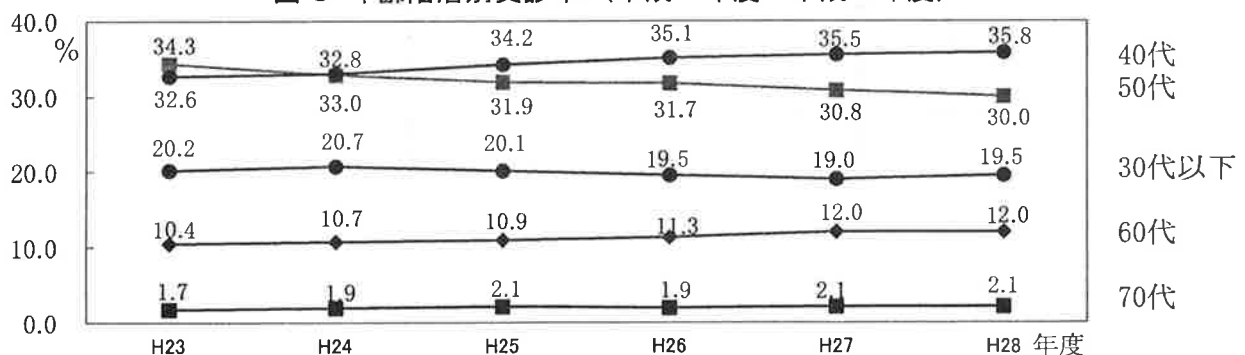


図 3 年齢階層別受診率 (平成23年度~平成28年度)



## 〈精検受診状況〉

X線撮影で要精検となった443人のうち精検受診者は391人（88.3%）で（図4）、前年と同様だった。男女別の精検受診率は、男性の88.0%に対し、女性は88.8%と男性より0.8ポイント高かった（表2）。実施主体別でみると、ドック79.7%、事業所は92.8%であった。

また、精検受診者の主な疾患は、肺がん1人、肺がん疑22人であった。

喀痰細胞診検査について精検受診者は2人で肺がん疑1人、異常なし1人であった。

図4 X線・CT精検受診状況

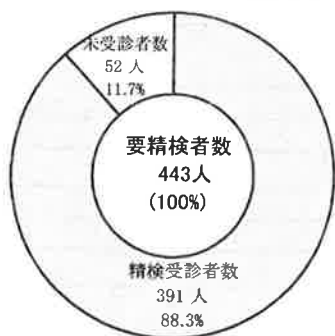


表2 X線・CT精検受診状況(男女別)

	要精検者数	精検受診者数 (%)
男性	309	272 (88.0)
女性	134	119 (88.8)
計	443	391 (88.3)

表3 主な疾患

区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精密検査結果														
				肺がん			肺がん疑	他悪性腫瘍	結核要医療	結核要観察	結核治癒	他呼吸器	循環器	他異常	異常なし			
				早期	進行	不明												
X線・CT検査	事業所	15,346	290	269	1			8	3				1	81	5	14	156	
	ドック	4,843	153	122			1								42	2	7	57
	計	20,189	443	391	1			22	3	0	0	1	123	7	21	213		
喀痰検査	事業所	763	1	1														1
	ドック	478	1	1				1										
	計	1,241	2	2				1										1
合計		445	393	1			23	3	0	0	1	123	7	21	214			

表4 確定がん（年齢階層別・男女別・早期進行別）X線(CT含む)

区分	早期がん					進行がん					不明		合計
	男性		女性		計	男性		女性		計	男性	女性	
	X線	喀痰	X線	喀痰		X線	喀痰	X線	喀痰		X線	X線	
～ 39													
40～ 44													
45～ 49													
50～ 54													
55～ 59													
60～ 64													
65～ 69												1	
70～ 74													
75～ 79													
80～													
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

# 乳がん検診

593事業所及び個人受診者1,470人と、ドックで1,859人、健康管理センターで1,039人の計4,368人を実施した。前年度に比べて9人（0.2%）の増となった。

受診者の7.6%にあたる331人が要精検となり前年度比で1.3ポイント低くなった。なお、年間の実施日数は265日で、一日当たり16.5人を実施した。

受診者のうち乳房画像診断のみの者は2,097人（48.0%）で、視触診と乳房画像診断を併用した者は1,903人（43.6%）、視触診のみの者は368人（8.4%）であった（表1）。

総合健診センター 表1 受診者数及び要精検者数・経過観察者数

	実施主体	乳がん検診			検査方法			実施日数	一日当たり実施数
		受診者数	要精検者数 (%)		視触診のみ	画像診のみ	視触診+画像		
出張検診施設	事業所	378	17 (4.5)		83	86	209	21	18.0
		1,092	72 (6.6)		263	151	678	71	15.4
ドック	事業所	1,859	182 (9.8)		-	1,859	-	136	13.7
合計		3,329	271 (8.1)		346	2,096	887	228	14.6

附属あおもり健康管理センター

施設	事業所	1,039	60 (5.8)		22	1	1,016	37	28.1
	計	1,039	60 (5.8)		22	1	1,016	37	28.1

合計

出張検診施設	事業所	378	17 (4.5)		83	86	209	21	18.0
	計	2,131	132 (6.2)		285	152	1,694	108	19.7
ドック	事業所	1,859	182 (9.8)		-	1,859	-	136	13.7
合計		4,368	331 (7.6)		368	2,097	1,903	265	16.5
前年度		4,359	386 (8.9)		391	2,112	1,856	208	21.0

ドックでは乳房超音波検査とX線を用いた画像診断としている

## <精検受診状況>

乳がん検診での要精検者331人のうち精検受診者は313人（94.6%）で（図1）、前年と比べて2.9ポイントの増となった。精検受診者の主な発見疾患は、乳がん発見数9人（0.2%）のうち早期がん6人、進行がん2人、不明1人で、乳腺腫瘍5人（1.5%）、乳腺症51人（15.4%）などであった（表2）（図2）。また、マンモグラフィ+乳腺超音波受診者は1,343人（30.7%）で、そのうち要精検者は150人、精検受診者は145人（96.7%）、がん発見数は3例（0.2%）であった。

図1 乳がん検診精検受診状況

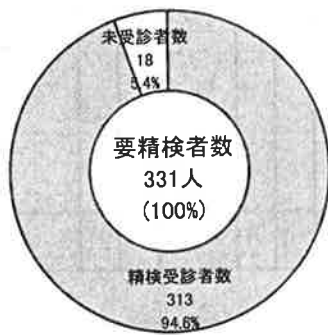
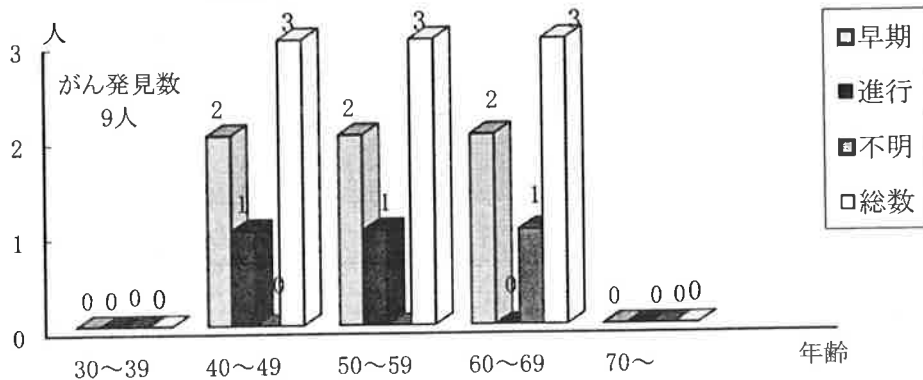


表2 主な発見疾患

	受診者数	要精検者数	精検者数 (%)	精密検査結果							
				乳がん			乳腺腫瘍	乳腺症	線維腺腫	その他	異常なし
				早期	進行	不明					
事業所	2,509	149	137 (91.9)	5			3	20	12	17	80
ドック	1,859	182	176 (96.7)	4			2	31	16	82	41
合計	4,368	331	313 (94.6)	9			5	51	28	99	121

図2 発見乳がん(早期進行別・年齢階層別)





# 大腸がん検診

782事業所及び個人受診者17,762人と、ドックで4,780人、健康管理センターで13,706人の計36,248人を実施した。前年度に比べて、1,448人(4.16%)の増加となった。受診者の4.4%にあたる1,606人が要精検となり、前年比で0.2ポイント低くなっている(表1)。

受診者総数36,248人を男女別でみると、男性23,712人(65.4%)、女性12,536人(34.6%)で、男性が全体の約6割半ばを占めている(図1)。

年齢階層別では、40代13,019人(35.9%)、50代11,766人(32.5%)、30代以下5,905人(16.3%)の順となっている(図2)。過去6年間の推移をみると、30代のみが連続して下降傾向を示しているのが気付きではあるが、他の世代はほぼ横ばいと言っていい(図3)。

総合健診センター 表1 受診者数及び要精検者数

	出張検診		施設		ドック		合計	
	受診者数	要精検者数(%)	受診者数	要精検者数(%)	受診者数	要精検者数(%)	受診者数	要精検者数(%)
事業所	10,982	450(4.1)	6,780	297(4.4)	4,780	224(4.7)	22,542	971(4.3)
附属あおもり健康管理センター								
事業所	3,241	144(4.4)	10,465	491(4.7)	*	*	13,706	635(4.6)
合計								
合計	14,223	594(4.2)	17,245	788(4.6)	4,780	224(4.7)	36,248	1,606(4.4)
前年度	13,645	628(4.6)	16,341	749(4.6)	4,814	210(4.4)	34,800	1,587(4.6)

図1 受診者数(男女別)

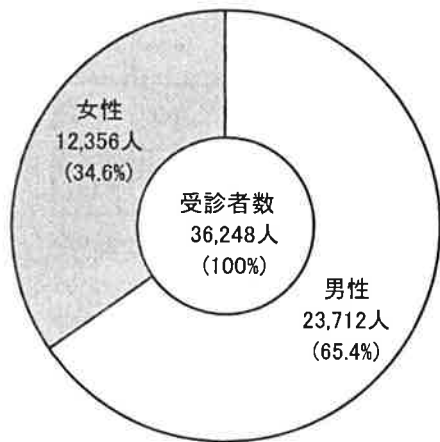


図2 年齢階層別受診状況

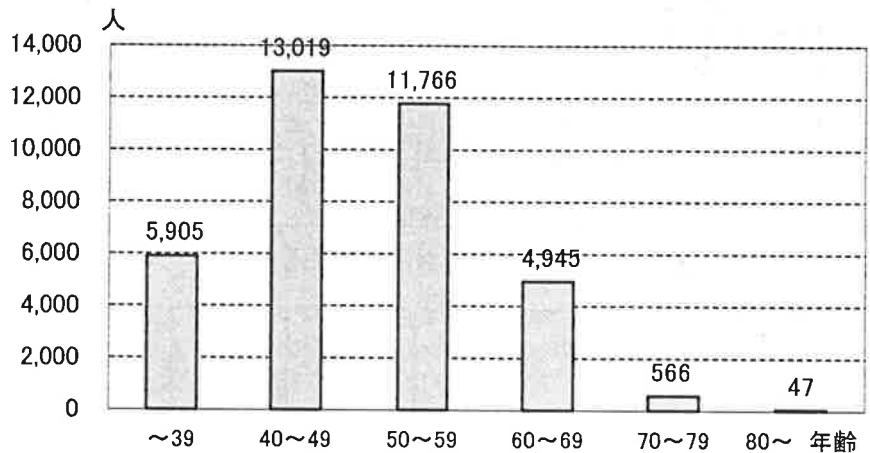
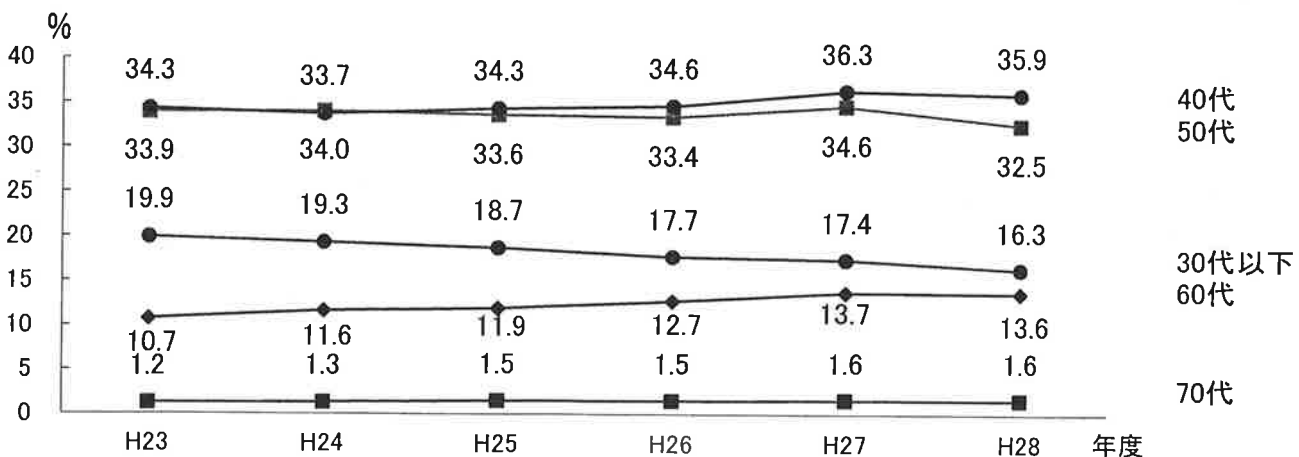


図3 年齢階層別受診率(平成23年度~平成28年度)



## 〈精検受診状況〉

要精検者1,606人のうち精検受診者は1,149人(71.5%)で(図4)、前年に対し0.3ポイント低くなった。男女別の精検受診率は、女性の74.1%に対し、男性は70.5%と若干の差はあった(表2)。また、実施主体別で見ると事業所の精検受診率(71.5%)が、市町村の精検受診率(81.7%)に比べ10.2ポイント低かった。

精検受診者の主な発見疾患は、大腸がん発見数25人(0.07%)、うち早期がん20人、進行がん5人大腸ポリープ551人(1.52%)、大腸憩室73人(0.20%)などであった(表3)(表4)(図5)。

図4 精検受診状況

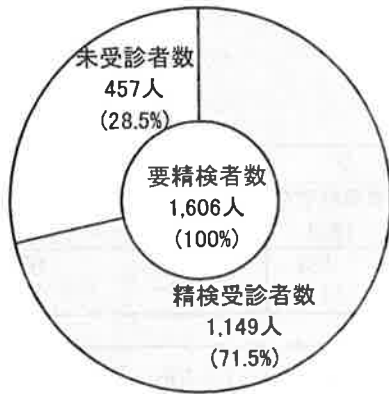


表2 精検受診状況(男女別)

	要精検者数	精検受診者数 (%)
男性	1,142	805 (70.5)
女性	464	344 (74.1)
計	1,606	1,149 (71.5)

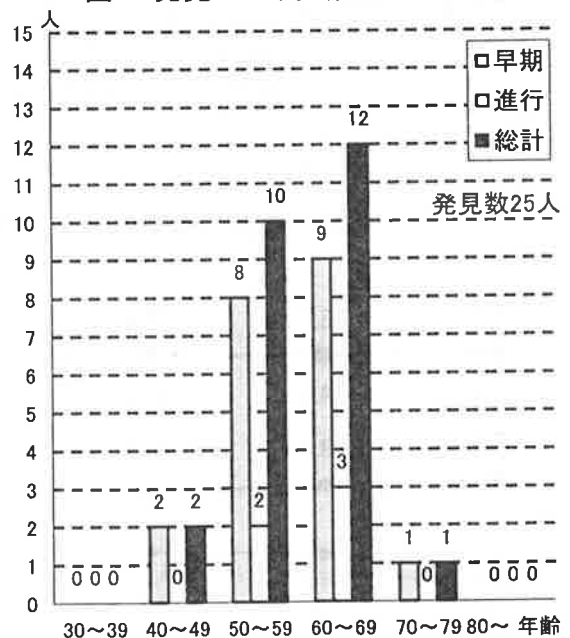
表3 主な発見疾患

	受診者数	要精検者数	精検受診者数 (%)	精密検査結果										からの受診報告 要精検者本人	
				大腸がん			大腸がん疑	大腸ポリープ	大腸憩室	大腸炎	痔	その他	異常なし		計
				早期	進行	不明									
事業所	31,468	1,382	982 (71.1)	22	4	481	60	27	44	24	277	939	43		
ドック	4,780	224	167 (74.6)	3		70	13	7	9	11	47	160	7		
合計	36,248	1,606	1,149 (71.5)	25	4	551	73	34	53	35	324	1,099	50		
				18	4										
				2	1										
				20	5										

表4 発見がん(年齢別・男女別・早期進行別)

		早期	進行	不明	男女計	合計
40~49	男女	0	0		0	2
	男女	2	0		2	
50~59	男女	6	2		8	10
	男女	2	0		2	
60~69	男女	8	3		11	12
	男女	1	0		1	
70~79	男女	1	0		1	1
	男女	0	0		0	
80~	男女	0	0		0	0
	男女	0	0		0	
男女計	男女	15	5	0	20	25
	男女	5	0	0	5	
合計		20	5	0		

図5 発見がん(早期進行別・年齢別)



## 前立腺がん検診

165事業所及び個人受診者2,374人と、ドックで2,797人、健康管理センターで1,932人の計7,103人を実施し、前年度より240人(3.5%)の増だった。また、受診者の2.5%にあたる180人が要精検となった。なお、年間の実施日数は831日で、一日当たり8.5人を実施した(表1)(表2)。

実施にあたっては原則として50歳以上を検診の対象者とした。

年齢階層別では、50代2,897人(40.8%)、60代1,727人(24.3%)、70代337人(4.7%)、40代1,608人(22.6%)、80代以上38人(0.5%)、39歳以下496人(7.0%)となっている(図1)。

### 健診センター

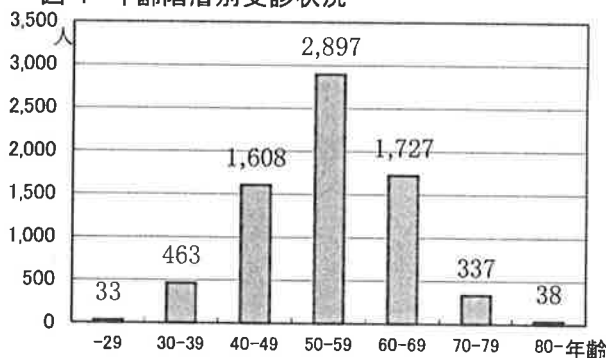
表1 受診者数及び要精検者数

	出張検診		施設		ドック		合計		実施日数	一日あたり 実施数
	受診者数	要精検者数 (%)	受診者数	要精検者数 (%)	受診者数	要精検者数 (%)	受診者数	要精検者数 (%)		
事業所	1,621	42 (2.6)	753	32 (4.2)	2,797	53 (1.9)	5,171	127 (2.5)	582	8.9
附属あおもり健康管理センター	254	6 (2.4)	1,678	47 (2.8)	*	*	1,932	53 (2.7)	249	7.8
合計	1,875	48 (2.6)	2,431	79 (3.2)	2,797	53 (1.9)	7,103	180 (2.5)	831	8.5
前年度	1,849	45 (2.4)	2,258	60 (2.7)	2,756	46 (1.7)	6,863	151 (2.2)	792	8.7

表2 年齢階層別要精検者数

区分 年齢別	受診者数	正常	要精検			
			4.0未満	4.0~10.0	10.1~20.0	20.1~50.0
~29	33	33				
30~39	463	459	4			
40~49	1,608	1,600	7	1		
50~59	2,897	2,844	47	3	3	
60~69	1,727	1,638	78	7	4	
70~79	337	319	17	1		
80~	38	30	4	2	2	
合計	7,103	6,923	157	14	9	

図1 年齢階層別受診状況



## 〈精検受診状況〉

要精検者180人のうち精検受診者は124人(68.9%)であった。精検受診者の主な発見疾患は、前立腺がん発見数20人(0.3%)のうち早期がん14人、前立腺肥大症54人(0.8%)などであった(表3)(表4)(図2)。

表3 主な発見疾患

	受診者数	要精検者数	精検受診者数率	精密検査結果					
				前立腺がん			前立腺肥大	その他の疾患	異常なし
				早期	進行	不明			
事業所	4,306	127	95 (74.8)	7	1	3	42	14	28
ドック	2,797	53	29 (54.7)	7		2	12	2	6
合計	7,103	180	124 (68.9)	14	1	5	54	16	34

表4 発見がん(年齢別・早期進行別)

	早期	進行	不明	合計
40~49	1			1
50~59	3			3
60~69	7	1	2	10
70~79	3		1	4
80~			2	2
合計	14	1	5	20

図2 発見がん(早期進行別・年齢別)

